

令和 7 年 3 月議会

生活環境委員会 報告資料

- | | |
|------------------------------|-----|
| ○ 市営天神自転車駐車場の一時利用料金改定について | 1 頁 |
| ○ 令和 7 年度 福岡市土地開発基金事業計画案について | 2 頁 |
| ○ 福岡市下水道経営計画2028（最終案）について | 5 頁 |

令和 7 年 3 月

道 路 下 水 道 局

市営天神自転車駐車場の一時利用料金改定について

1 報告の趣旨

市営天神自転車駐車場（以下、天神駐輪場）の一時利用料金を現状の割引料金（1日あたり50円／回）から通常料金（100円）に戻すこととしたため、報告するもの。

2 天神駐輪場利用料金50円導入の経緯

天神地区における①路上駐輪場への利用集中、②周辺路上への自転車放置への対策として、平成23年度から天神駐輪場の利用料金（1日）を半額の50円とし、当駐輪場へ誘導した（市営駐輪場のうち利用料金が50円であるのは天神駐輪場のみ）。

現在、①②の課題は解消している。

3 天神駐輪場の現状と対応

（1）現状

- 天神ビッグバンによるビル建替えに伴い附置義務駐輪場が増加し、周辺は駐輪場が充実
- 周辺駐輪場の充実に合わせて、路上駐輪場は順次撤去
- 一方、天神駐輪場のみ利用料金が安価なため、利用が集中（表1）

（2）対応

利用料金を戻すことにより、収容台数に余裕のある周辺駐輪場へ利用分散を図る

利用料金(1日)

「50円」



他の市営駐輪場と同額

「100円」

4 改定の時期

令和7年5月1日

民間商業施設開業※に伴い、天神地区の駐輪場収容台数が増えるタイミングに合わせて実施

※同年4月下旬 ワンビル(ONE FUKUOKA BLDG.)開業（駐輪場収容台数約500台）

5 スケジュール

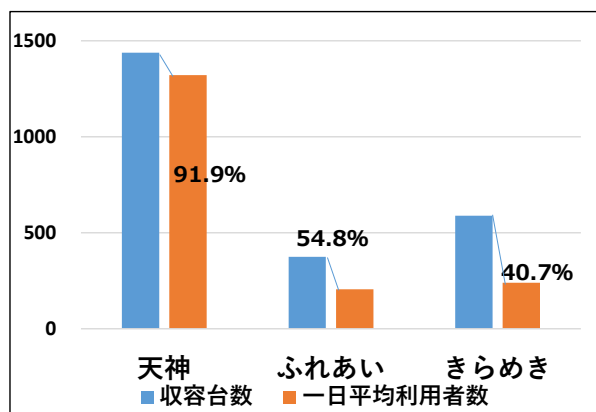
3月議会終了後

利用者へ周知

令和7年5月1日

一時利用料金改定

（表1）令和5年度市営駐輪場利用状況（近隣）



天神地区



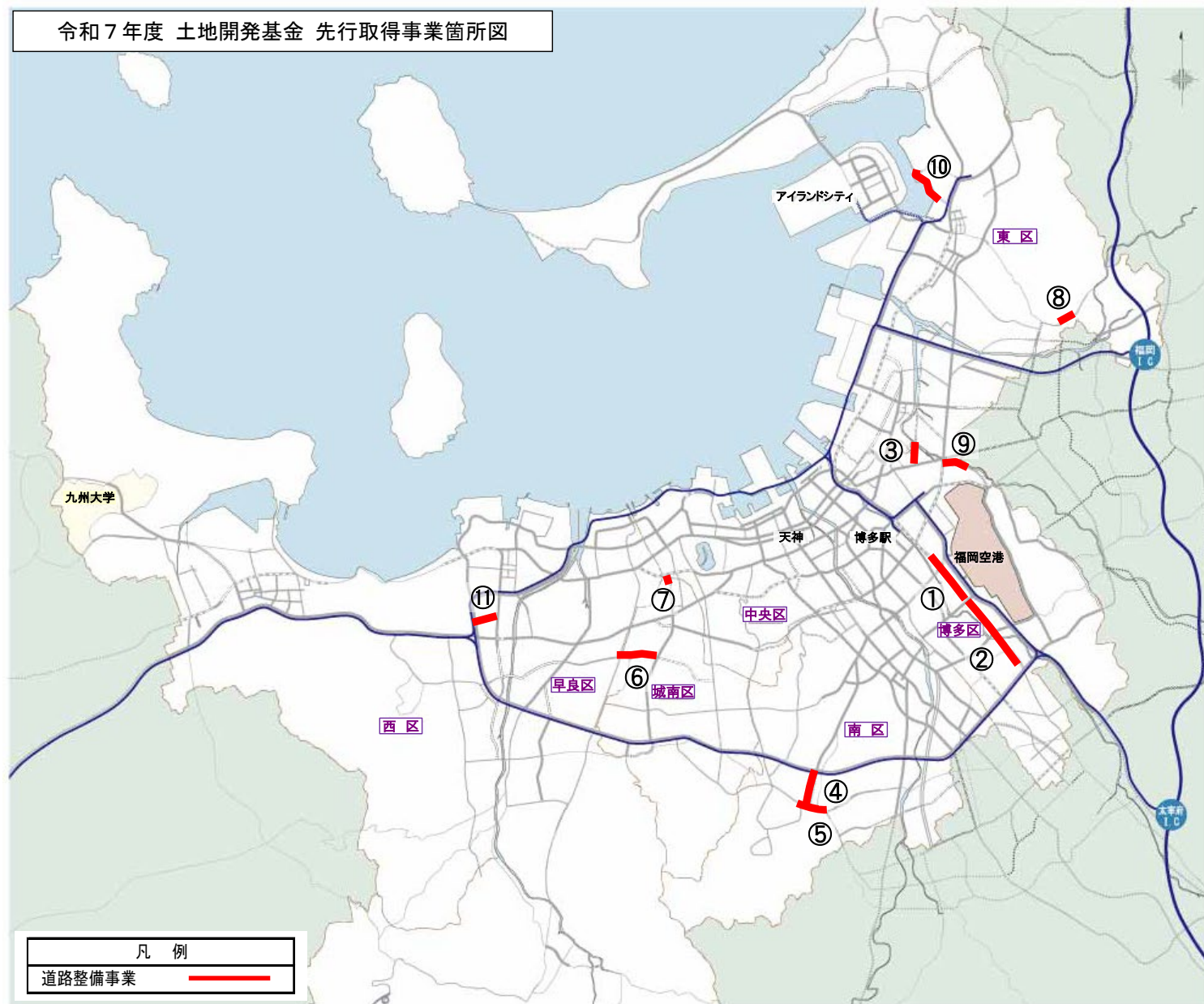
令和7年度 福岡市土地開発基金事業計画案について

道路整備

道路整備事業において、都市の骨格となる幹線道路及び市民生活に密接に関連する生活道路等、多様な都市活動を支える重要な基盤施設としての道路整備を効率的に推進するため、用地の先行取得を行うもの。

No	路線名 (工区名)	事業計画区間		令和7年度計画		買収 予定価格
		延長 (m)	幅員 (m)	買収面積 (㎡)	補償件数 (件)	
①	都市計画道路 国道3号線 (半道橋)	1,240	25	173.68	3	不動産価格 評定委員会 の評定価格 以内
②	都市計画道路 国道3号線 (東那珂)	1,915	25	392.25	2	
③	都市計画道路 吉塚松崎線 (吉塚)	610	15	494.97	4	
④	都市計画道路 野間屋形原線 (花畑)	761	25	653.88	5	
⑤	都市計画道路 老司片江線 (やよい坂)	680	14~25	447.64	5	
⑥	都市計画道路 長尾橋本線 (茶山)	920	22	173.65	2	
⑦	市道 地行鳥飼七隈線 (鳥飼1)	190	16	38.31	-	
⑧	県道 猪野土井線 (土井4)	350	16	97.69	-	
⑨	県道 水城下臼井線 (大井)	1,300	12	198.50	-	
⑩	市道 香椎花園線 (香住ヶ丘)	1,080	12	321.08	-	
⑪	市道 福重石丸線	670	11	10.28	-	
合計 11路線				3,001.93	21	
事業計画額				1,902,359 千円		
基金への返還残高 (令和6年度末見込み)				2,985,236 千円		

令和 7 年度 土地開発基金 先行取得事業箇所図



福岡市下水道経営計画2028（最終案）について

1 報告の趣旨

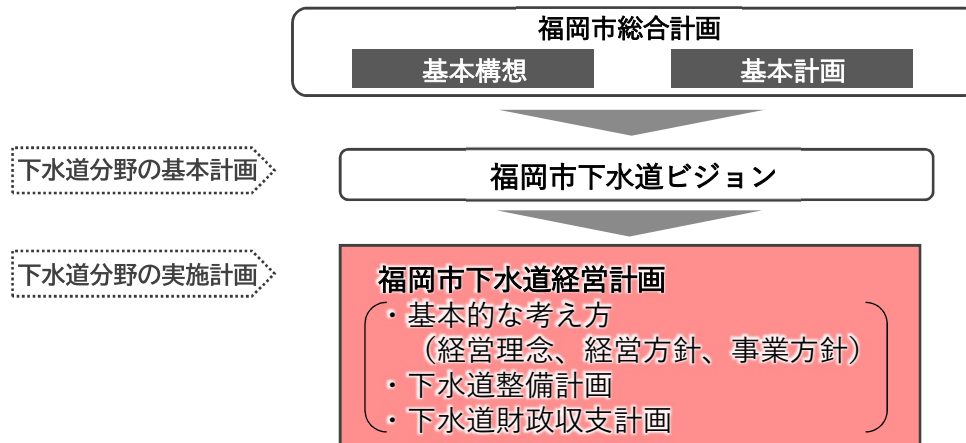
下水道分野の実施計画である「福岡市下水道経営計画2024（以下、現計画という）」が、計画期間の満了を迎えることから、「福岡市下水道経営計画2028」（以下、本計画という）を策定するものであり、今回、その最終案について報告するもの。

	令和5年度	令和6年度
計画検討		原案の検討 （「整備計画」や「財政収支計画」の検討） 最終案作成 策定
生活環境委員会報告	12月議会 ● 着手	9月議会 ● 骨子案 12月議会 ● 原案 ● 最終案

2 最終案について

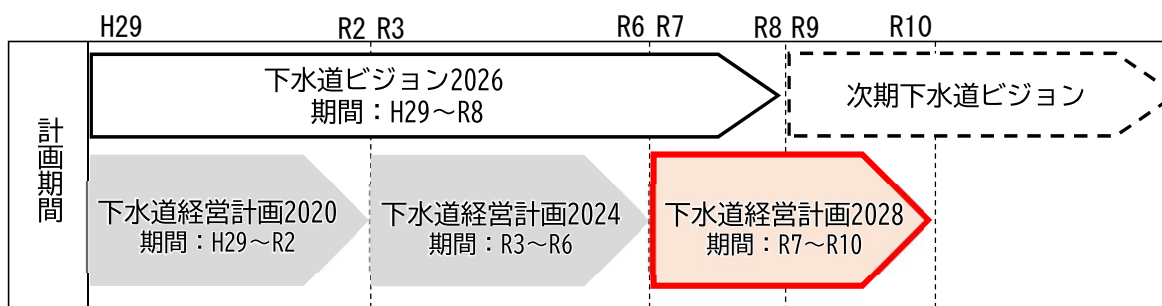
（1）計画の位置付け

本計画は、福岡市下水道事業の基本計画である「福岡市下水道ビジョン」で示された将来像や施策目標等を計画的かつ段階的に達成していくための、経営理念などを示した「基本的な考え方」、具体的な整備内容や投資額を示した「整備計画」及び、財政収支の見通しや財政運営の方向性などを示した「財政収支計画」からなる4年間の実施計画である。



（2）計画期間

令和7年度から4年間（令和7年～令和10年）



(3) 「下水道経営計画2028」における基本的な考え方

○ 経営理念

市民生活を支える重要な社会資本である下水道を、健全に次世代へ引き継ぎ、快適で安全・安心な市民生活の確保や地球環境の保全に努め、生活の質の向上と都市の成長を図るとともに、公営企業として経営の観点に配慮し、将来を見据え、様々なリスクにも対応できる持続可能な下水道サービスを提供していきます。

○ 経営方針

① 自律経営の持続

厳しい経営環境が続くことが見込まれる中、「雨水公費、污水私費の原則」のもと、コスト削減や事業の選択と集中、企業債残高の縮減など、経営基盤の強化を図ることで、公営企業として自律経営を持続します。

② 持続可能な下水道サービスの提供

老朽化施設の増加や激甚化・頻発化する自然災害に対し、常時・非常時において安定的に下水道サービスを提供し、市民の安全・安心なくらしを支え続けるため、適切なアセットマネジメントの実施や下水道施設の機能向上を図るとともに、人材育成等に取り組みます。

③ 変化する社会情勢への対応

社会情勢の変化を的確にとらえ、下水道に求められる新たなニーズに対し、新技術の活用やSDGsの理念を踏まえ、豊かな環境の創出や下水道の新たな価値の創造を図ります。また、多様な媒体を活用した効果的な広報により、下水道を「見える化」し、市民の理解を促進します。

○ 事業方針

下水道機能を適切に確保するため、改築更新（アセットマネジメント）を計画的に実施するとともに、災害に強い下水道を目指し、浸水対策や地震対策に重点的に取り組みます。また、脱炭素・循環型社会への貢献など新たなニーズに対応した事業に取り組みます。

I 持続可能な下水道システムの構築

- 計画的・効率的な改築更新(アセットマネジメント)の実施
- 「都心部下水道主要施設再構築プラン」の推進 **NEW**
- DXや官民連携等による経営基盤の強化



II 災害に強い下水道

- 「雨水整備Doプラン2026」、「雨水整備レインボープラン天神」の推進
- 内水浸水想定区域図の作成 **拡充** 次期雨水整備計画の策定 **NEW**
- 重要施設の耐震化の推進、能登半島地震等を踏まえた下水道BCPの充実



III 健全な水環境の創出

- まちづくりと連携した下水道整備の推進
- 天神周辺地区等の分流化の推進、合流式下水道改善対策の拡充 **拡充**



IV 脱炭素・循環型社会への貢献

- 省エネ機器や再生可能エネルギーの導入推進
- 下水道資源の有効利用や再生水利用の推進



V 身近な下水道

- 下水道博物館やSNS等を活用した下水道の「見える化」の推進



VI 地域活性化への貢献

- 国際貢献・官民連携によるビジネス展開の推進



(4) 「整備計画」の概要

○ 整備の基本的な方向性

「整備計画」では、下水道を取り巻く状況の変化を踏まえ、老朽化施設の改築需要が増大する中、下水道機能を適切に確保するため、「改築更新（アセットマネジメント）」を計画的に実施する。

また、近年、全国的に激甚化・頻発化している豪雨に対応するための「浸水対策」や、能登半島地震等を踏まえ大規模地震時にも下水道機能を確保するための「地震対策」に重点的に取り組む。

その他、「合流式下水道の改善」や「未整備地区の解消」、「再生水利用下水道」にも引き続き取り組む。

○ 下水道を取り巻く状況の変化

1. 増大する老朽化施設の改築需要

本市の下水道は、施設の半数以上が供用開始後30年以上を経過しており、今後、改築需要が大幅に増大することが見込まれている。

管渠の老朽化により、道路陥没や下水の溢水など重大な事故を引き起こす要因となる可能性がある。

供用開始後30年以上を経過する管渠（暗渠）の割合		
全体延長	令和5年度末	令和15年度末
5,041 km	66 %	80 %



老朽化した下水道管内の状況
(鉄筋・骨材の露出)

2. 激甚化・頻発化する豪雨

九州地方等の広範囲の地域に甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」や令和6年9月に発生した能登半島での豪雨など、近年、全国各地で局地的な豪雨が激甚化・頻発化しており、本市においても浸水リスクの増大が懸念されている。



博多駅に流入する大雨
(平成11年6月29日)

3. 大規模地震への備え

下水道施設に甚大な被害が発生した平成28年の「熊本地震」や令和6年の「能登半島地震」など、大規模地震が全国的に発生しており、本市においても、地震に強い施設整備など、ハード・ソフト両面での対応が求められている。



令和6年能登半島地震の被害（金沢市）

○ 主要な整備の特色

1. 改築更新（アセットマネジメント）

適切な維持管理による長寿命化を図るとともに、ライフサイクルコストの最小化を図りながら、施設の計画的な改築更新を進める。

特に、施設の整備時期が早く、老朽化の進んだ都心部については「都心部下水道主要施設再構築プラン」に取り組むとともに、その他の主要施設についても、再構築手法の検討を進めていく。

【管渠・ポンプ場・水処理センターの改築更新】

- ・老朽化の状況を踏まえ、計画的に改築更新を実施

【都心部下水道主要施設再構築プラン】 **NEW**

- ・ポンプ場の集約化等による一体的な再構築を行い、老朽化対策に加え、下水道施設の強靱化等を推進



老朽化した設備（重力濃縮槽汚泥掻寄機）

2. 浸水対策

令和元年度から市内全域の対策として実施している「雨水整備D○プラン2026」や、都心部での対策である「雨水整備レインボープラン天神」（第2期事業）に引き続き取り組む。

【内水浸水想定区域図の作成】 **拡充**

- ・内水ハザードマップのベースとなる内水浸水想定区域図を下水道区域全域を対象として作成

【次期雨水整備計画の策定】 **NEW**

- ・激甚化・頻発化する豪雨に対応するため、将来の気候変動等を踏まえた次期雨水整備計画を策定



雨水管（内径約5m）

「雨水整備D○プラン2026」

事業期間：R1～R8 ※重点33地区

「雨水整備レインボープラン天神（第2期事業）」

事業期間：R1～R10

3. 地震対策

ポンプ場・水処理センターの揚水施設や消毒施設、緊急輸送道路に埋設された管渠等の重要施設の耐震化を推進する。

また、能登半島地震等を踏まえ、防災拠点に接続する管渠等の上下水道一体での耐震化を推進するとともに、関係機関との連携強化等の下水道BCPの充実を図る。



施工前



施工後

管渠の地震対策（管更生）



施工前



施工後

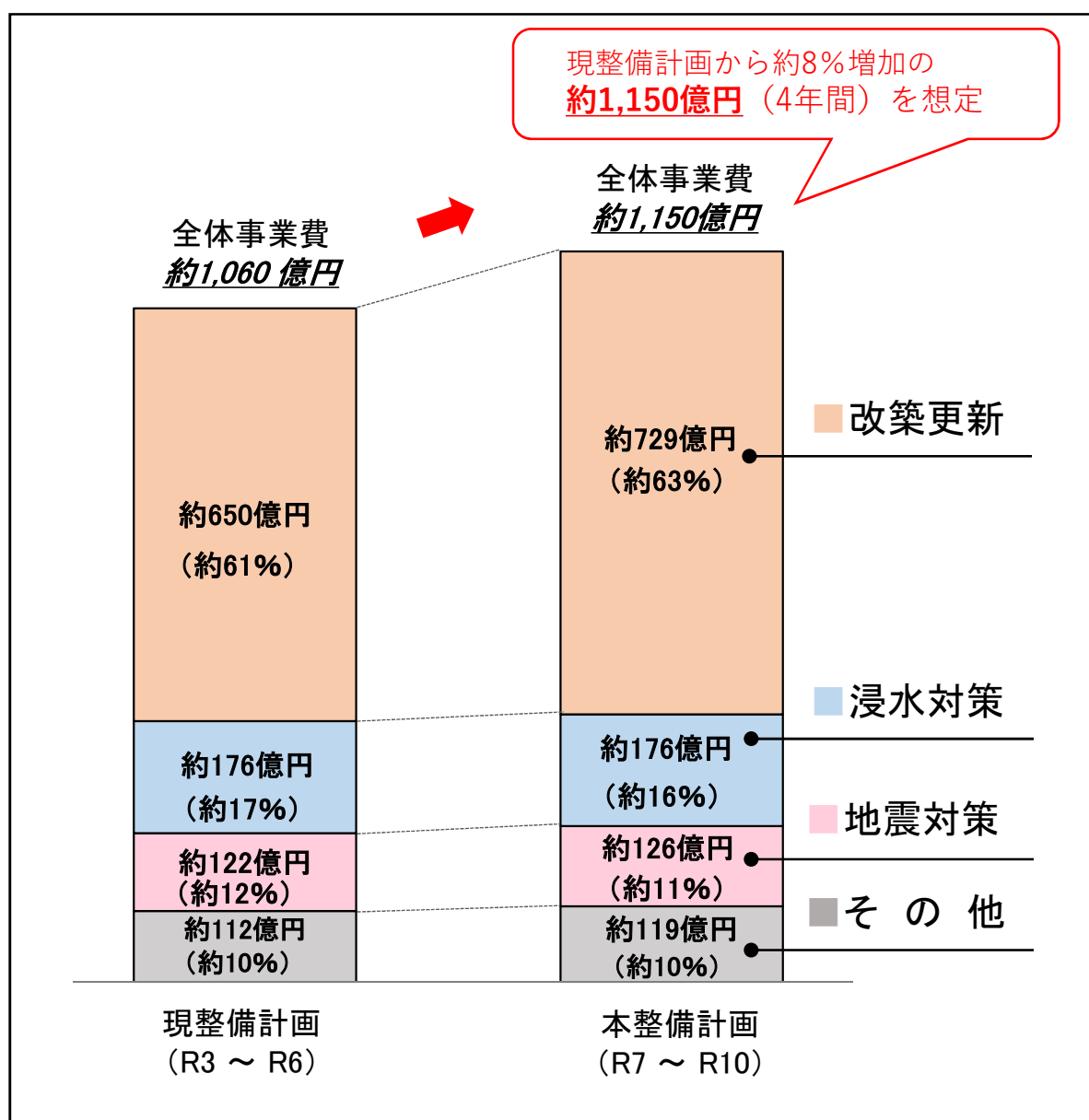
水処理センターの地震対策（耐震壁増設）

4. その他

- ・天神周辺地区等における浸水対策と連携した分流化の推進
- ・合流式下水道改善対策の拡充（臭気対策等）**拡充**
- ・まちづくりと連携した下水道整備（アイランドシティ等）
- ・省エネ機器、再生可能エネルギーの導入の推進
- ・リン回収新技術導入等の下水道資源有効利用の推進
- ・再生水利用下水道事業の推進

○ 本整備計画の事業費

本整備計画の事業費については、事業の選択と集中を図り、「改築更新（アセットマネジメント）」等を計画的に推進するとともに、安全・安心な市民生活を確保するための「浸水対策」や「地震対策」を重点的に推進するための事業費として、約1,150億円を見込んでいる。



(5) 「財政収支計画」の概要

○ 財政運営の方向性

下水道サービスを将来にわたり安定的に提供するため、「下水道整備計画」における必要な事業を実施するとともに、維持管理の効率化等による経費節減を図り、健全な財政運営に努め、経営基盤の強化に取り組む。

1. 自律経営の持続

使用料収入は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、現計画期間に比べ増加する見込みである。一方で、物価上昇等により費用の増加が見込まれるため、引き続き、経費節減を図り、利益確保に努め、自律経営を持続していく。

2. 下水道整備費の財源確保

老朽化施設の増加や、自然災害の激甚化・頻発化など、社会状況の変化への対応が求められており、今後も下水道整備を適切に実施する必要がある。そのため、国からの補助金等を最大限活用しつつ、企業債の発行により、下水道整備に必要な財源を確保していく。

3. 企業債残高の縮減

利益剰余金の確保に努め、利益処分による減債積立金を補てん財源として活用することにより、企業債の新規発行額を抑制し、企業債残高の縮減に努め、将来の元金償還や利息負担を軽減する。

○ 財政収支の見通し

単年度損益は、40億円から60億円程度で推移する見込みであり、現計画期間と同程度を確保する見込みである。また、下水道整備に必要な資金についても損益勘定留保資金等の補填財源や減債積立金の活用により、資金不足を生じさせることなく確保する見込みである。

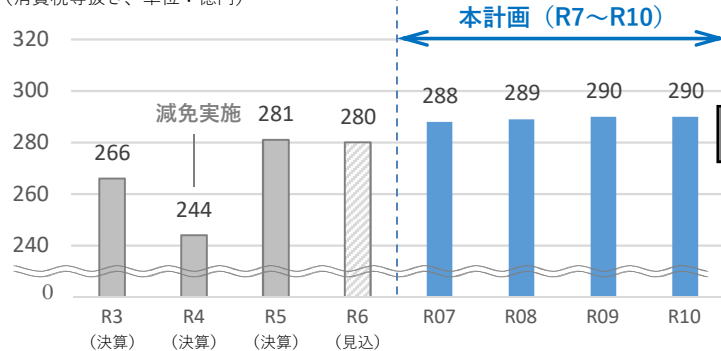
これらのことにより、本計画の4年間においても、現行の使用料体系のもとで健全な経営の維持に努めていく。

○ 主な項目の見通し

※ 令和3年度～令和5年度は決算値を、令和6年度は見込値を記載

1. 下水道使用料収入の見通し

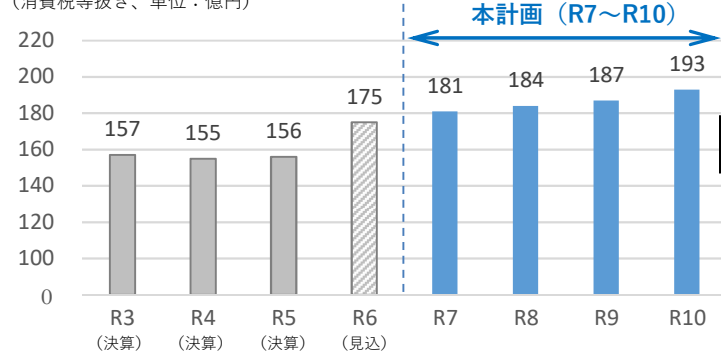
(消費税等抜き、単位：億円)



下水道使用料収入は、コロナ下から回復し、**現計画期間に比べ増加**する見込みである。

2. 維持管理費の見通し

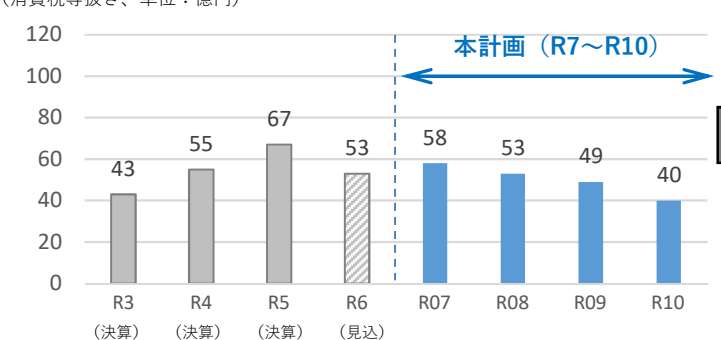
(消費税等抜き、単位：億円)



維持管理費は、**物価上昇等の影響により、増加**する見込みである。

3. 単年度損益の見通し

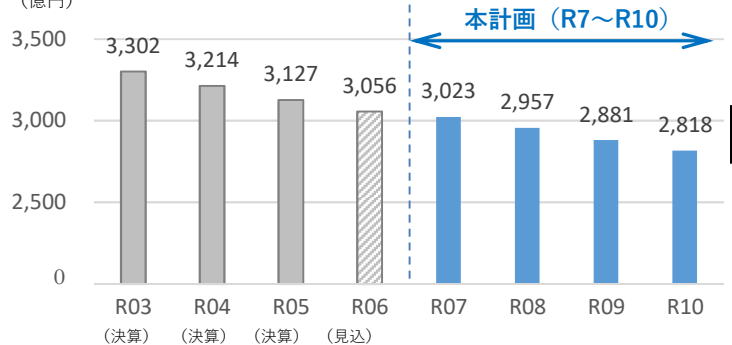
(消費税等抜き、単位：億円)



単年度損益は、**現計画期間と同程度を確保**する見込みである。

4. 企業債残高の見通し

(億円)



企業債残高は、企業債の発行抑制に努めることで、**着実に縮減を進めることができる**見込みである。

現行の使用料体系のもとで健全な経営の維持に努めていく

(6) 成果指標

○ 整備目標

改築更新（アセットマネジメント）	現状値 R6末見込み	目標値 R10末
下水道管渠の改築延長	—	144km ※年間約36km
ポンプ場の改築設備数	—	77設備
水処理センターの改築設備数	—	131設備
浸水対策		
「雨水整備D o プラン2026」重点地区の完了地区数	26地区/33地区	33地区/33地区 ※完了
「雨水整備レインボープラン天神」の実施 (第2期事業)	第2期事業 実施	第2期事業 完了
次期雨水整備計画の策定・実施	検討	実施
内水浸水想定区域図の作成・公表 (下水道区域全域を対象)	検討	公表
地震対策		
下水道管渠の耐震化延長 (耐震性能確保済み延長/重要な幹線等の延長)	62% (922km/1,488km)	64% (954km/1,488km)
ポンプ場の耐震化箇所数 (耐震性能確保済み箇所数/耐震性能の確保が必要な箇所数)	65% (36箇所/55箇所)	73% (40箇所/55箇所)
水処理センターの耐震化施設数 (耐震性能確保済み施設数/最低限の機能確保に必要な施設数)	50% (47施設/94施設)	74% (70施設/94施設)

○ 経営目標

	現状値 R6末見込み	目標値 R10末
企業債残高の縮減 (年度末残高)	3,056億円	2,818億円
健全な経常収支比率の維持 (年度末比率：経常収益/経常費用)	113.6%	100%以上